

人文会ニュース

1993. 2

人の話を謙虚に聞く

..... 府中市立中央図書館長 高原安一 1

人文書こだわり航海日誌

..... パルコブックセンター吉祥寺店 矢部潤子 7

第十回特約店・準特約店の選定を終えて

..... 特約店委員会 12

〔人文書講座27〕

表現の禁止を経由する表現

..... 大澤真幸 21

1992年 人文会各社の受賞図書一覧

37

「知の再発見」双書

絵で読む世界文化史

池田啓・長谷川明監修 畏敬と親しみを
持つ陸上最大の動物・象の生態と、神話
の時代からの人間との交流の歴史を豊富
な図版を交えて描き出す。 1300円

象の物語

神話から
現代まで

天文不思議集

荒俣宏監修 かつて人間は気象や天体
の運行の不思議を説き明す知の体系を持
っていた。古代より各地に残る伝説や神
話から図版と共に読み解く。 1400円

創元社

大阪市北区西天満1-4-2
東京都新宿区山吹町334-11

宗教の復讐

G・ケベル 中島ひかる訳 信仰か近
代理性か。社会に戦線布告する宗教を
社会学的に考察する問題の書。3600円

理想の書物

W・モリス著 ビーターズ編 川端
康雄訳 書物芸術に関するモリスの全
論考を収録。その思想と実践。3200円

〈双書・20世紀紀行〉

メキシコ人

P・オースター 野田隆ほか訳 矛盾
を生きる国の底知れぬ力。現代メキシ
コの苦悩を生る声で描く。 3900円

晶文社

東京都千代田区外神田2-1-12
電話(3255)4501

トナカイ月(上・下)

〈原始の女 ヤーナンの物語〉

E・M・トーマス/深町眞理子訳 二万
年前の人類を描く感動的な小説。厳し
い自然と動物と霊の世界。●各2500円

潜水艦伊16号 通信兵の日誌

石川幸太郎 真珠湾、マダガスカル、ガ
島へ出撃した伊16号潜の奇跡的に残っ
た艦内日誌、51年目に浮上! ●1600円

中国の悲しい遺産

〈この四十年の検閲なき証言〉

B・B・ロード/金美齡訳 政治に翻弄
された人々の悲惨な体験談を通して中
国の真の姿を明らかにする。●2900円

草思社

〒150 東京都渋谷区神宮前4-26-26
電話 03-3470-8565(定価は税込み)

暴かれる嘘

虚偽を見破る対人学

P・エクマン著/工藤 力訳編 感情
研究の第一人者が、嘘の背後に存在
する心理的・生理的メカニズムを徹
底的に究明した話題の書。 3399円

嗜癖する社会

A.W.シェフ著/斎藤 学監訳 酒、
ギャンブル、仕事、買い物等、自己
破壊に至る嗜癖とそれを支えるシス
テムからの解放を示唆。 2163円

誠信書房

東京都文京区大塚3-20-6
TEL.03-3946-5666

人の話を謙虚に聞く

府中市立中央図書館長 嵩原 安一

魅力に満ちた仕事

三十年余り同じ仕事を続けていると、飽きることはな
いか、と尋ねられることがある。毎日、変化がなくて、
慣れてしまうと面白くもないだろう、とも言われる

どの仕事でも、毎日胸をわくわくさせることが必ず起
きるわけでもないだろう。図書館も例外ではない。それ
でも思いがけない出来ごとが日々生まれていて、感動す

ることもあるし、心豊かな一日を過ごしたりもする。も
ちろん、早く過ぎ去ってほしいと願う苦痛を伴う事件も
少なくない。図書館に来て目的を達した利用者の喜ぶ姿
を見て、嬉しくなったりほのぼのとした気持ちになれる。
今日も何か新しい発見があるかもしれない。そのような
期待感はまだうすれてはいない。

歳を重ねるにつれて自分の無知を思い知らされてい
る。学ばなければならぬこと、興味をもつことが増し
てきている。まだまだ不十分な図書館のサービスを何と

かしくなくてはいけない。飽きるどころか時間が足りない。

面白いと言うと語弊があるが、うまく説明のできない魅力に満ちた職場であることは確かである。

開かれた図書館へ

一九六一年、府中市立図書館が誕生した。多摩地区では当時図書館と言えば都立三館（八王子、青梅、立川）と市立では武蔵野、町田の両市だけであった。

蔵書四千冊余りで開館した図書館は、木造二階建ての元町役場の建物であった。大正十四年に造られた建物は廊下を歩くと、あちこちで木組みのきしむ音がした。館員はウグイス張りの床と称していたが、利用者は音をたてないように苦労して歩いていた。

館員は大西伍一館長と職員四名であった。開館当初は利用が少なかつた。当時の統計を見ると一日二十数名という日がある。他の多くの図書館がそうであったように学生の勉強室の様相を呈していた。

大西館長は徹底して利用者の便を考えた。次つぎと

サービス拡充、改善に着手した。館長着任前の開設準備の段階では、現在考える図書館の機能を果すだけの設備、体制も整ってはいなかった。熱心さの余り、時には予算や職員体制のことは二の次となったこともあった。利用者に役立つこと、喜ばれることは少し無理をしても実行に移されていた。

一九六三年、日本図書館協会から『中小都市における公共図書館の運営』（通称「中小レポート」）が刊行された。

このレポートを大西館長は繰り返し読み、館員にも読むことをすすめた。読み進む中で不明な点や疑問は時をおかずに、協会やレポート作成にかかわった図書館人、特に清水正三氏（当時京橋図書館長）に電話をし、あるいは尋ねて行って教えを受けていた。

このレポートがもとになって日本の図書館は、閉ざされた図書館から開かれた図書館へと大きく変わって行くことになる。

貸出しが「特別」なサービスから、図書館の基本的なサービスとして、どの図書館でも当り前のサービスとなったのもこのレポート以後のことである。

閉されていた扉を開くために、真剣に取り組んだ図書館ではさまざまな苦勞があつたはずである。

一九六二年、開設の翌年度から正式に貸出しを始めた府中図書館にしても、いくつもの壁があつた。蔵書も少ないのだから時期尚早との声も内から上つていた。児童図書館を設けるにしても、はじめは会議室を兼用して活動しはじめている。この他にも全て閉架で出納式の図書を一部閉架にするなど、懐しいが一寸ほろ苦しい想い出がある。

当時の図書館を知らない人にとっては、信じ難い話であり、さも大事件のように持ち出すと不思議に思われてしまう。過去は振り返りたくないが、忘れてはならないことを伝えるのは、当時その場にいた者のたいせつな義務でもある。

『中小レポート』のあと一九六五年に日野市立図書館が移動図書館による活動を開始した。多摩川の対岸の革命的な活動は図書館のあり方を根底から考え直させた。

日野へはたびたび見学に行った。よく見、よく聴いてこれからの図書館運営の改善に役立てよと館長のすすめだった。日野図書館と前川恒雄館長からは現在まで限り

ない教えを受けている。

徹底した図書の「貸出し」については、はじめから館界あげて正しい評価をされていたわけではない。反発、批判あるいは疑問視している図書館員も多かった。しばらくして、『市民の図書館』（一九七〇・日本図書館協会）が刊行され「貸出し」が全国に及ぶことになる。それまで批判的であつた人の中にははじめから「貸出し」を積極的に唱えていたと言う人も出てきた。日野図書館の活動についても、またその後から懸命に追いかけた図書館への評価も、現場で同じような汗をかいていない時から、屈折した声として聞こえてきた。不快、腹立たしいと言うよりも、淋しく思えた。気の毒でもあつた。

なかなか思い通りの運営や、思想の図書館はできないが、向上発展を目指した苦勞をしないことは不幸なことである。

大西伍一館長のこと

大西館長は機会ある毎に、誰もがその人にしかない貴重な体験をもっているから、どんな人の話でもよく聴く

ようにと言われた。さらに記録のたいせつなことをよく話し、各人それぞれが生活記録を、あるいは聞き書きをつくることを勧められた。

一八九八年生れ。図書館長として着任したとき六十三歳であった。それから七年間、創設期の府中図書館を育てることに骨身を削った。振り返ってみて、仕事に傾ける情熱の若さは年齢とまったく関係のないことを、しみじみと思う。

一九六七年末に退職されたが、当時あった図書館友の会の人達から記念出版の話が持ち上った。いくつかの案があったが、記録、聞き書きを皆に勧めてきた実証として、『私の聞き書き帖』（慶友社、昭和四三年）を著わされた。

柳田国男、安藤広太郎、小出満二、大賀一郎、島崎藤村そのほか人脈のひろがり、克明な記録に驚かされる。民俗学、農学、理学、文学者の一側面と、話を聞いた時代の社会状況、世相などが平明な文章で綴られている。高名な学者だけでなく、ご自身の伯母、義母、あるいは近隣の知人との縁側での話、京王電車のホームでの二人の男の競輪についての立話もある。その人にしかない体験をたいせつにした人の特色でもあり興味深い。

序文に次の言葉がある。

謙虚に、つましく聞こう。わが心を無心の鏡にして。相手が誰であっても。また、たとい私には不愉快な言葉であっても、とにかく聞こう。それで反省もしよう。良薬が口に苦いこともある。

人の言葉も忠実に聞くことによって、自分が空虚になるような気がするの、思いつきである。自分の不勉強を補ってもらったり、異質の物の見方を教えられたり、結局自分は深められ、強められるのである。

この言葉どおり図書館を利用する人達に対して謙虚な応接をされ、館員にも求めた。

図書館運営によせられる市民の要望は極めて多種多様である。さまざまな声の中には、相反するものもある。求めるだけではなく、貴重な答も含まれている。気づかないことを教えてくれる。

自分だけで、あるいはひとつの図書館だけでは解決できない問題も少なくない。図書館間の相互協力がだんだん実のある内容になってきているが、相互協力は資料面だけでなく、館員が他館のことにも協力を惜しまないことが最もたいせつなことである。

大西館長の話の中に「煙仲間」という言葉があった。大西館長の師、下村湖人氏の著作に『煙仲間』がある。恋死なん 後の煙にそれと知れ ついにもらさぬ 中の思いを

という『葉隠』の中の古歌を引いて、昔、蔭の奉公を誓いあった人たちが「煙仲間」と称したとある。

『煙仲間』は著者が戦中の不穏な世相の中で説いたものである。「煙仲間」は多数国民の蔭になって、忍ぶ恋の気持ちで、具体的な奉公をやりとげて行くために、地域職域といった小社会の日常の凡所を通じて社会に奉仕する一般青壮年者の結合を指している。

次の文章がある。

——煙仲間が将来の構図を完成するために果し得る最も本質的な役割は、何といっても実践であります。「論理的にうち立てられた構図がなければ何を実践していいかわからない」という代りに「何はともあれ実践してみよう。そして構図の材料として、われわれの実践の成果を提供しよう」というのが煙仲間の行き方であればなりません——

大西館長は理屈を並べて、結局何もしない者を嫌った。徹底して実践を重視した。

図書館が本当に市民の役に立つ、当てになる存在として定着するためには、まだ少し時が必要である。よりよい図書館に成長していくために理論もたいせつだが、何

●新刊案内●

●巫俗儀礼を括弧した新しい視角からの分析
韓国の祖先崇拜

崔吉城キキルン著 重松真由美訳
簡装 400頁・定価600円
祖父江孝男氏推薦、韓国民俗学、人類学の第一人者が綿密なフィールドワークにより韓国の祖先崇拜とシャーマニズムの関連性を分析したはじめての研究

●北方諸島をアイヌ民族の手に!!
**アイヌ・モシリ
アイヌ民族から見た
北方領土返還と交渉**

アイヌモシリの自治区をめぐり、最新編代表 日本一昭
AS委 300頁・定価2000円
アイヌ・モシリ（人間の大地）と呼ばれるアイヌ民族の聖地・北方領土を内蔵するためにアイヌ民族を無視した日・口交渉に反対する画期的編集

●神奈川大学評議要書——創刊！
国家の変容
神奈川大学評議叢書（第一巻）

平田清明・藤田勇・小島晋治・岡繁野・伊東俊太郎・松下圭・田中正司・鳴瀬成洋 執筆
A6・240頁・定価2000円
新社会形成のフォーラムにむかふその知的素材となりうるものを国家・歴史・生命・文化といった層位相において提供する画期的な研究叢書創刊

御茶の水書房

〒113 東京都文京区本郷5-30-20
☎03(5684)0751/振替東京8-14774

よりもまず市民の支持を受ける、役に立つと喜ばれる実践に力を注ぐことがおろそかになっては何もならない。図書館員仲間が目立ったり、評価を受ける前に、市民、利用者の信頼を受けることのできる「煙仲間」が増えなくては本当の発展はない。このような話を大西館長は機会をとらえては話された。

四千冊から始った図書館の蔵書は三十一年を経て九十万冊を超えた。この間、館運営を絶えず心配された大西館長は、今年五月に九十四歳で逝去された。名著『日本老農伝』（昭和八年・平凡社、復刻版／昭和六〇年・農文協）のほか十数冊の著書を残された。最近では『明治四四年大正元年 生意気少年日記』（昭和六二年・農文協）がある。そのいずれも記録、聞き書き、実践の書である。

利用者の言葉から

物理学、相対性理論の本をよく利用された元船長という老人があった。本をめぐるいろいろな話を交したが、印象に残っている言葉がある。

「自然は飛躍を許さない、とライプニッツが言ってい

ますよ。図書館の仕事も毎日こつこつ怠けず少しづつ成長していくのが正しいでしょう。あせらず飽きずにお続けなさい」

二十年以上の前のことである。昨日のこのように鮮明に声も顔も覚えていた。

本当たたいせつなことはいつの時代も変わらない。貸出し、リクエストなど、基本的なことが日常化されてその意義が軽くなってしまわないように初心を忘れないでいたい。

ハレ（晴）の日のサーブिसよりも、ケ（藝）の日のサーブिसをたいせつにする図書館でありたい。

人文書こだわり航海日誌

某月某日

人文会の方から、人文会ニュースに原稿を書くように
とのお話をいただいた。人文書を販売するにあたって、
日頃心掛けていることなどをテーマに、ということだ。
が、私の役割は、人文会特約店といっても様々な程度の
担当者がおり、こういうのも担当として実際に作業して
いるのだ、という現実を皆さんに知らせることなので
は、と都合よく思い直し、引き受けることにした。

大体、書店の業務は他業種のような徹底したマニユア

バルコブックセンター吉祥寺店 矢部潤子

ル化とはなじまず、担当の個人的技量に頼りがちであ
る。正直なところ、知らない本も置かなくては売り上げ
にならず、理解できなくても並べさえすれば売れること
もある。特に人文書は奥も深すぎ、幅も広すぎ、歴史も
あり、点数も際限がない。茫茫たる大海の中の羅針盤
は、自分の目と耳であり、より確かな手応えのある品揃
えのために、これを頼りに試行錯誤することになる。

しかし、実際は日常業務に追われて、各社からの郵便
物も読みきれず、FAXの速報性も活かされているとは

言い難い。私は今年三月までは理工書担当も兼ね、三月以降は新書担当を兼ねている。慢性的人手不足の折からはぜいたくな仕事の仕方になってしまったが、棚担当として基本的なことは、常に担当の棚前におり、本を触り続けることだ。が、現状では最低限の棚前滞空時間で作業を終えなければならぬ。時間的余裕の無さは、特に専門書の販売にとって致命的なのではないか。

某月某日

朝日新聞の書評に、「記憶の肖像」「うわの空」「森のバロック」と、人文関係が揃って良い位置にとりあげられる。無事在庫あり。今回は三点ともタイミングが良く、載るのも早かった。ありがたいはずの書評もタイミングをはずすと効果がない。本好きのお客様にとっては活字メディアの権威は絶大で、新聞に載っているのに何故在庫がないのか、ということになる。せめて、いずれ載るという未確認情報でも入手できないものか。

某月某日

二紙に載った「森のバロック」、思ったほど書評の影響

はない。書評の内容にもよるのだろうが、既に購入済みの熱狂的読者以外には訴えなかったのかしら。

「ルブレザンタシオン」第四号入荷。お客様が手にとり、こんなところにあるの？ との声を漏れ聞く。又少し悩む。「高等魔術の教理と祭儀」、祭儀篇がようやく出たので、教理篇も積む。が、やはり出るのは新刊だった。

某月某日

「シンクロシティ」が長い間をおいてようやく追加入荷。在庫はかろうじて保ったが、この好調の持続はどうしたんだ。朝日新聞のコラムにとりあげられたのが八月十七日、重版出来が九月、内容は難しそうなのに延々売り上げベスト入り。コラムもこんなに影響が出れば本望なのでは。おおよそ、心理関係は強く、八九年三月吉祥寺着任以来確実に伸びており、最も安定している。「シンクロシティ」や、より一層の充実で、まだまだ期待できそうだ。

某月某日

連休をとって旅行に行ってしまった休み明け、フォ

ローしてくれた同僚に感謝しつつ売場を一周して現場復帰をはかる。減っていない平台にガックリし、思い出せない売り切れに頭を捻る。新刊台帳を見ながら、新刊攻勢にも追い付かないとならないが、相変わらず点数が多い。陳列しきれないほどの中から優先順位の決め手になるのは、これだ！ と思う担当の心持ちのみ。売る気にさせたモノ勝ちだ。私はその気になるのは、自分が今興味をもっている事柄に引っかけりあるものであり、実は個人的な事情に由来したりするのである。書評掲載や新聞広告、何とか賞受賞も重要だが、そんな客観的な要因より、もっと強い動機が決定打だ。で、担当としては少しでも多くの引っかけりを持つことを目標として、自分の中に「気になるもの」を蓄積していかなければならない。これが担当としての財産であり、仕事をする上で の喜びでもあるのだから。

某月某日

阿部謹也の新刊が出た。この出版社で追加は順調に入るかな？ 一般文芸書に比べれば商品確保の苦労など微々たるものだけど、その分切れたときは少し恥ずかし

い。人文書でも売れるとわかる一握りの書き手の方たちがいるが、三十代の若手とされる次世代の著者たちにももっと期待したい。今はまだ著作も少なく散發気味だが、早く雑誌だけでなく書籍でも活躍してほしい。

某月某日

毎週火曜日はジャンル別売上ベスト集計の日。自分の休み明けでもあり、ただひたすら忙しい。月末と重なったりすると何をしているのかわからないくらい。

人文書の売上ベストは当然のことながら、ほとんどがロングセラーで、その間隙に書評掲載の書籍、新刊が顔を出す。この新参入賞組からロングセラーに成長していくものもある。そして超の字が付くお化けになるのだが、この手助けも重要な仕事だ。棚に埋もれ、新刊の華々しさに隠れてしまう彼らを見つけ出し、きっかけを与えて又展開する。思った結果が出ないこともあるが、中ぐらいのロングセラーを少しでも増やしたい。

某月某日

ジル・ドゥルーズの新刊が入荷。待っていた人はいた

かしら。大部な本で、値も張るが、順調に売れていくはず。

某宗教関係出版社の方が来店して、応対に苦しむ。書店に対する営業とも思えない異様な熱気がチラシに漂う。強気なオーラを発散するこういうタイプの人は大の苦手。が、この苦手意識が先走って、公平を欠いたかしらと又少し反省する。

某月某日

月末の事務作業に追われていたので、久々にまる一日棚と向き合う。平台のほこりを払い、積み直し、棚の帯やスリップも点検して化粧直しだ。きれいになった棚を見て満足。平台も一定の高さに揃っているより、適当な高低や乱れがある方が買い易いらしいが、汚ないのは論外だ。

ゆっくり棚を見ると、思わぬ勘違いや新たな疑問を発見する。疑問はいつでも、これはどこに置くのが正解か？ というもので、ジャンルを横断する本の多いこの頃は迷い続けだ。結局は棚づくりの基本的考え方に戻るのだが、これも単純明解、簡単明瞭なわけではない。商

品陳列に際しては、お客様と書店側との共通の認識が存在すると信じて、これを重要な基盤にしている。が、売れると思われる場所と、その商品の属する本来のジャンルとが一致しないことは頻繁にある。当然売れるだろうところへ置かれるが、こうなると既に本来のジャンルそのものの意味が薄れる。置かれた側にとっても、これはジャンル本来の内容の周辺部分、こだわりの部分なはずで、何冊もかかえればジャンルの内容は変質する。サービシス業である限り、世の中の動きや、お客様の動向に敏感に反応する健康的な姿勢も必要だろうし、たとえ逆行しても、主張のある意志的な棚づくりが必要なきもあるだろうと思う。こだわりの部分は、追究し過ぎても独自の嫌味だし、狭いスペースでは邪魔なときもある。この新刊洪水の中、自分なりのルールに則って交通整理をしてきたはずだが、実は知らず知らず歪んだルールを身につけて、取捨選択をしているのではないか。経験からの賢明な判断と思い込み、紙一重でせっかくの機会を失っているのではないか……。

で、八方ふさがりを打開するために、現ジャンルの部分的解体と再構成を考える。現在のジャンルを横断す

る、有機的で主張のある棚構成を目指し、流動的で伸縮自在なものとする。棚自体の配列も、中心部から波及するように置き、中央に最新の、動きのあるジャンルをもっていき、外に拡がるにつれて徐々に従来の固定された基幹ジャンルへとつなげる。現状では、大型催事として、期限付きでジャンルを超えた雑誌書籍を並べて対応していたが、これの拡大版と考える。しかし、これもスペース、規模の問題、担当の仕方、効果測定の方法など問題が多く、以前から念頭にあるわりには思い付きの域を出ない……。

某月某日
師走に入り、年末年始用の商品を確保する頃になつた。

九三年三月の渋谷店開店準備のため、店を離れることが多くなり、棚に接する機会が減って、棚担当としてはちょっと落ち着かない。が、新しい店づくりは楽しい。特に荒詰め後の棚の微調整、これが一番の楽しみだ。渋谷店に赴任しても、恐らく明るく悩み続ける人文書担当なのだろう――。

「男と女」をテーマに時代を撃つ

男女論

〔山崎浩二〕

フェミニズムから恋愛論、マザコンからポテイコン、美人論から性まで快刀乱麻に斬り捨てる▼1500円

コンピュータ、バイオ、素材などハイテク技術の将来を予測。21世紀日本のハイテク戦略を提唱▼1800円

◆神沼二真◆

ハイテクと

日本の未来

現代アメリカ小説の新しい魅力

〈アンドレ・デュース作品集〉

アダルタリ

A・デュース／島田絵海訳 不気味なくらい振じれた世界の中で本当の愛を探す珠玉の作品集▼1800円

紀伊國屋書店

(出版部)

東京都世田谷区桜丘5-38-1

☎03(3439)0128(営業)

第十回特約店・準特約店の選定を終えて

特約店委員会

昨春秋、第十回目の人文会特約店の選定をさせていた
だきました。

この選定は、二年に一度会員社の最新一年間の「人文
書常備冊数」、「人文書売上冊数」及び「常備社数」を基
礎データにいたしております。

人文会には、昨年新たに「草思社」が加入し、会員社
は二十二社となりましたが、選定基準は、基本的にはほ
とんど変わっていません。

①特約店については

①会員二十二社中十三社以上と常備契約を交わし

②会員社の人文図書を一、一〇〇冊以上展示する
③会員社の人文図書を年間三、三〇〇冊以上販売さ
れていること

②準特約店については

①会員社二十二社中十社以上と常備契約を交わし
②会員社の人文図書を七七〇冊以上展示するか、ま
たは年間二、二〇〇冊以上販売されていること

今回の調査結果から選定させていただきました特約
店・準特約店は表①のとおりです。特約店様十四店・準
特約店様十六店の減少となりました。

年々厳しくなっている書店様の状況は、日常の営業活動で痛感しています。常備の展示冊数・前回比三%減、売上冊数・前回比八%減から改めて確認させていただく結果となりました。占有率では、展示・売上とも大都市集中化が一層進んだままになってしまいました。しかし、そんな中で京都府の場合、展示で五%の減、これは大書店様の改装等の影響と考えられますが、売上十二%もの増と頑張った地域もあります。それにしても大阪府での売上七%減は気になるところです。

また今回も人文会会員社二十二社の販売データから、人文書だけの販売状況を表③にまとめました。紙面の都合で五十位までしか記載できませんでしたが、この五十位までの書店様の人文書販売成績は、表③に記してありますように、前回比三%減でした。順位の変動はベスト十位の中ではほとんどありませんでしたが、「リプロ池袋店」「八重洲ブックセンター」「弘栄堂吉祥寺店」「京都大学生協」「立命館大学生協」の五書店様の二桁、それもかなり高い二桁の伸び率は注目されるところで、

近年、書籍全体の売上冊数の減少傾向は事実として、データの中身を単に数字としてではなく、人文書一点一

点を分析し、現在の人文科学を継続的に問い続けて行く作業の必要性を再度痛感しております。それは一九八八年に、人文会二十周年記念出版として発行いたしました「人文科学の現在」の第二弾の製作へと必然的に向かわせました。昨年、弘報委員会にその製作グループが発足し、今年十月中旬の刊行をめざし鋭意奮闘中であります。

厳しい状況下、人文書販売により良い環境を築く努力をこれからも続けて行きたいと考えております。

書店様・取次店様には一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

別表①

	特約店	準特約店
74	188	
76	190	72
78	197	80
80	220	98
82	161	75
84	165	88
86	138	140
88	139	140
90	164	102
92	150	86

別表2 特約店、人文書展示冊数・売上スリップ枚数及び占有率 (1992.10/調査：年間集計)

*A=特約店 B=準特約店

地区名	A	B		展示・売上	増減	占有率
神奈川県	12	3	人常 人売	31,459 111,282	-4% -9%	6.52% 6.42%
首都圏 3県計	21	10	人常 人売	57,969 164,500	-7% -10%	12.01% 9.50%
千代田 区	7	2	人常 人売	27,583 136,279	1% -4%	5.71% 7.87%
中央区	3	1	人常 人売	15,421 94,538	-4% 4%	3.19% 5.46%
港区	1	1	人常 人売	2,344 16,354	-15% -25%	0.49% 0.94%
渋谷区	5	2	人常 人売	13,634 63,254	-9% -9%	2.82% 3.65%
目黒区	1	0	人常 人売	4,682 28,702	15% 3%	0.97% 1.66%
世田谷 区	0	3	人常 人売	3,269 26,919	-12% -26%	0.68% 1.55%
新宿区	5	2	人常 人売	15,677 112,390	-19% -12%	3.25% 6.49%
中野・ 杉並区	2	3	人常 人売	7,723 15,508	-4% -17%	1.60% 0.90%
豊島区	3	2	人常 人売	18,652 85,791	4% 13%	3.86% 4.95%
その他 地域	3	3	人常 人売	9,240 34,009	-10% -6%	1.91% 1.96%
東京都 23区計	30	19	人常 人売	118,225 613,744	-5% -5%	24.49% 35.43%
武蔵野 地区	2	1	人常 人売	5,335 37,092	-26% -21%	1.11% 2.14%
立川地 区	2	2	人常 人売	6,973 24,725	-4% -3%	1.44% 1.43%
八王子 地区	5	1	人常 人売	10,792 36,860	-1% 4%	2.24% 2.13%
東京都 下計	9	4	人常 人売	23,100 98,677	9% -21%	4.78% 5.70%
東京都 計	39	23	人常 人売	141,325 712,421	-6% -2%	29.27% 41.12%
静岡県	4	3	人常 人売	10,596 26,126	0% -17%	2.19% 1.51%

地区名	A	B		展示・売上	増減	占有率
札幌市	5	2	人常 人売	12,971 34,331	4% -14%	2.69% 1.98%
その他 地域	0	2	人常 人売	4,011 7,897	-21% -30%	0.83% 0.46%
北海道 計	5	4	人常 人売	16,982 42,228	-3% -17%	3.52% 2.44%
青森県	1	2	人常 人売	4,466 9,395	-1% 7%	0.93% 0.54%
秋田県	0	1	人常 人売	1,367 4,397	-11% -37%	0.28% 0.25%
岩手県	1	3	人常 人売	4,717 7,131	-6% -18%	0.98% 0.41%
山形県	1	1	人常 人売	2,341 6,166	3% -23%	0.48% 0.36%
宮城県	5	2	人常 人売	10,441 37,693	-19% -8%	2.16% 2.18%
福島県	2	0	人常 人売	2,942 4,670	-11% 11%	0.61% 0.27%
東北6 県	10	9	人常 人売	26,274 69,452	-11% -11%	5.44% 4.01%
茨城県	4	1	人常 人売	11,144 17,656	-4% -30%	2.31% 1.02%
栃木県	0	1	人常 人売	1,755 3,783	-54% -37%	0.36% 0.22%
群馬県	1	2	人常 人売	3,443 8,885	-21% -33%	0.71% 0.51%
北関東 3県計	5	4	人常 人売	16,342 30,324	-18% -32%	3.38% 1.75%
埼玉県	3	4	人常 人売	13,202 24,981	-16% -9%	2.73% 1.44%
千葉県	6	3	人常 人売	13,308 28,237	-6% -11%	2.76% 1.63%
横浜市	7	2	人常 人売	15,920 82,161	-9% -8%	3.30% 4.74%
川崎市	1	1	人常 人売	3,151 6,069	-7% 1%	0.65% 0.35%
その他 地域	4	0	人常 人売	12,388 23,052	5% -17%	2.57% 1.33%

地区名	A	B	展示・売上	増減	占有率	
神戸市	4	2	人常	23,677	49%	4.90%
			人売	42,585	-7%	2.46%
その他地域	1	1	人常	3,070	7%	0.64%
			人売	9,213	-20%	0.53%
兵庫県	5	3	人常	26,747	43%	5.54%
			人売	51,798	-10%	2.99%
奈良県	0	0	人常	0		
			人売	0		
和歌山県	1	0	人常	2,178	0%	0.45%
			人売	2,759	-15%	0.16%
近畿2府4県計	23	9	人常	87,480	4%	18.12%
			人売	352,120	-2%	20.32%
鳥取県	1	1	人常	2,472	5%	0.51%
			人売	3,710	-11%	0.21%
島根県	1	1	人常	2,663	-17%	0.55%
			人売	5,288	-42%	0.31%
岡山県	3	1	人常	7,079	24%	1.47%
			人売	15,328	5%	0.88%
広島市	3	2	人常	7,948	-4%	1.65%
			人売	31,266	-4%	1.80%
その他地域	0	0	人常	12	-87%	0%
			人売	604	-47%	0.03%
広島県	3	2	人常	7,960	-4%	1.65%
			人売	31,870	-6%	1.84%
山口県	1	0	人常	2,066	-17%	0.43%
			人売	4,810	-13%	0.28%
中国5県計	9	5	人常	22,240	1%	4.61%
			人売	61,006	-9%	3.52%
香川県	1	0	人常	2,993	18%	0.62%
			人売	13,015	28%	0.75%
徳島県	0	0	人常	1,257	-37%	0.26%
			人売	2,137	-26%	0.12%
愛媛県	2	1	人常	5,013	7%	0.10%
			人売	9,878	-27%	0.57%
高知県	1	0	人常	1,722	-23%	0.36%
			人売	4,070	-51%	0.23%
四国4県計	4	1	人常	10,985	-4%	2.28%
			人売	29,100	-17%	1.68%
福岡市	3	1	人常	8,411	-3%	1.74%
			人売	35,120	-3%	2.03%

地区名	A	B	展示・売上	増減	占有率	
名古屋市	9	1	人常	33,533	42%	6.95%
			人売	77,026	-15%	4.45%
その他地域	1	2	人常	4,306	-15%	0.89%
			人売	14,989	0%	0.87%
愛知県	10	3	人常	37,839	32%	7.84%
			人売	92,015	-13%	5.31%
岐阜県	1	2	人常	3,746	-10%	0.78%
			人売	7,662	-28%	0.44%
三重県	1	1	人常	3,121	-7%	0.65%
			人売	7,957	-28%	0.46%
東海4県計	16	9	人常	55,302	18%	11.45%
			人売	133,760	-16%	7.72%
山梨県	0	0	人常	855	5%	0.18%
			人売	385	-36%	0.02%
長野県	1	0	人常	4,809	-13%	1.00%
			人売	10,266	-41%	0.59%
新潟県	2	1	人常	3,754	-23%	0.78%
			人売	13,582	-30%	0.78%
富山県	1	2	人常	2,694	-2%	0.56%
			人売	9,728	-12%	0.56%
石川県	2	3	人常	6,860	-9%	1.42%
			人売	18,610	-43%	1.07%
福井県	1	0	人常	1,519	-28%	0.31%
			人売	3,332	-23%	0.19%
北陸・甲信越計	7	6	人常	20,491	-13%	4.24%
			人売	55,903	-35%	3.23%
京都市	8	1	人常	25,123	-5%	5.20%
			人売	112,321	13%	6.48%
その他地域	0	1	人常	873	-9%	0.18%
			人売	1,806	-14%	0.10%
京都府	8	2	人常	25,996	-5%	5.38%
			人売	114,127	12%	6.59%
滋賀県	0	0	人常	704	-14%	0.15%
			人売	1,570	9%	0.09%
大阪市	6	1	人常	26,650	0%	5.52%
			人売	160,734	-6%	9.28%
その他地域	3	2	人常	5,205	-18%	1.08%
			人売	21,132	-11%	1.22%
大阪府	9	3	人常	31,855	-3%	6.60%
			人売	181,866	-7%	10.50%

地区名	A	B		展示・売上	増減	占有率
熊本県	1	2	人常	2,882	-24%	0.60%
			人売	7,748	-18%	0.45%
大分県	1	0	人常	3,461	0%	0.72%
			人売	4,120	1%	0.24%
鹿児島県	2	1	人常	2,697	-24%	0.56%
			人売	13,466	55%	0.78%
沖縄県	1	0	人常	3,358	9%	0.70%
			人売	3,717	-41%	0.21%
九州沖縄 8県計	11	7	人常	27,397	-12%	5.67%
			人売	81,672	-9%	4.71%
全国計	150	86	人常	482,787	-3%	100.00%
			人売	1,732,486	-8%	100.00%

地区名	A	B		展示・売上	増減	占有率
北九州市	2	1	人常	4,013	-12%	0.83%
			人売	8,620	-23%	0.50%
その他 地域	0	1	人常	618	-32%	0.13%
			人売	1,778	-30%	0.10%
福岡県	5	3	人常	13,042	-8%	2.70%
			人売	45,518	-9%	2.63%
佐賀県	0	0	人常	270	-40%	0.05%
			人売	547	-53%	0.03%
長崎県	1	1	人常	1,285	-14%	0.27%
			人売	5,992	-17%	0.35%
宮崎県	0	0	人常	402	-57%	0.08%
			人売	564	-82%	0.03%

北関東 ブロック	東北 ブロック	北海道 ブロック	人文会特約店・準特約店一覽
水戸 川又書店駅前店 つくば 丸善筑波大学会館書 籍部	青森 成田本店	札幌 旭屋書店札幌店 紀伊國屋書店札幌店 バルコブックセンタ ー富貴堂 丸善南一条店 北海道大学生書房 クラーク店	特約店
茨城大学生協	弘前 紀伊國屋書店弘前店 秋田 弘前大学生協 盛岡 加賀谷書店本店 盛岡 東山堂本店 第一書店 さわや書店 山形 山形大学生協 山形 高山書店 仙台 宝文堂	札幌 リーブルなにわ 丸善らがあゝる 新札幌D.U.O店 三省堂書店旭川店 旭川 三省堂書店旭川店 函館 森文化堂	準特約店

<p>前橋 友朋堂書店梅園店 煥平堂</p>	<p>首都圏 (3県) ブロック</p> <p>浦和 須原屋 大宮 須原屋コロソ店 新栄堂書店大宮駅ビ ル店 千葉 多田屋セントラルプ ラザ店 キティランド千葉店 船橋 千葉大学生協 リプロ船橋店 旭屋書店船橋店 柏 新屋堂柏店 横浜 有隣堂伊勢佐木店 有隣堂西口店 有隣堂東口ルミネ店 有隣堂戸塚店 栄松堂書店相鉄ジョ イナス店 横浜そごうブックセ ンター 慶応大学生協日吉店 有隣堂川崎BE店 藤沢 有隣堂藤沢店 リプロ藤沢店 小田原 伊勢治書店 厚木 有隣堂厚木店</p>
<p>宇都宮 新屋堂宇都宮店 前橋 リプロ前橋店 太田 ナカムラヤ</p>	<p>浦和 埼玉大学生協 大宮 ブックセンター押田 三省堂ブックポート 大宮店 所沢 芳林堂書店所沢店 津田沼 芳林堂書店津田沼店 柏 スカイプラザ浅野 松戸 堀江良文堂書店松戸 店 横浜 有隣堂たまプラーザ 店 川崎 関東学院大学購買部 江崎書店向ヶ丘店</p>
<p>東京都内 ブロック</p> <p>千代田 東京堂 三省堂書店神田本店 書泉グランデ 岩波ブックサービス センター 旭屋書店水道橋店 明治大学生協本校店 法政大学生協市ヶ谷店 丸善本店 八重洲ブックセンター 旭屋書店銀座店 慶応大学生協三田店 大盛堂書店 紀伊國屋書店渋谷店 旭屋書店渋谷店 三省堂書店渋谷店 国学院大学生協 東京大学生協本郷店 リプロ浅草店 東京大学生協駒場店 栄松堂書店蒲田店</p>	<p>新宿 紀伊國屋書店本店 三省堂書店新宿西口 店 芳林堂書店高田馬場 店</p>
<p>千代田 富山房書店 丸善上智大学購買部 近藤書店</p> <p>中央 近藤書店 港ノ門書房 紀伊國屋書店笹塚店 青山学院購買会</p> <p>港 虎ノ門書房 渋谷 紀伊國屋書店笹塚店 品川 リプロ大森店 台東 明正堂書店中通店 品川 リプロ大森店 世田谷 紀伊國屋書店玉川高 島屋店 駒大書房 キリン堂書店 ラムラブックセンタ ー芳進堂 早稲田大学生協文学 部店</p>	<p>新宿 紀伊國屋書店本店 三省堂書店新宿西口 店 芳林堂書店高田馬場 店</p>

表3 人文会特約店年間人文書売上ベスト50店 '92/10

人文順	前回	地区名	書店名	人文枚数	増減%
1	1	新宿	紀伊國屋書店本店	72,449	-13%
2	2	大阪	紀伊國屋書店梅田店	66,347	-4%
3	4	中央	八重洲ブックセンター	61,987	18%
4	3	大阪	旭屋書店本店	51,086	-9%
5	5	千代田	三省堂書店本店	49,858	2%
6	6	豊島	リプロ池袋店	49,358	59%
7	9	京都	駿々堂京宝店	23,998	-8%
8	7	名古屋	丸善名古屋支店	23,550	-22%
9	12	千代田	書泉グランデ	22,884	0%
10	11	豊島	芳林堂書店	21,274	-13%
ベスト10小計				442,791	0%
11	10	文京	東大本郷生協	21,220	-17%
12	14	目黒	東大駒場生協	20,356	-5%
13	13	渋谷	大盛堂書店	20,233	-6%
14	16	福岡	紀伊國屋書店福岡店	19,716	-3%
15	17	千代田	東京堂本店	18,459	-3%
16	8	世田谷	紀伊國屋書店営業本部	17,345	-35%
17	18	横浜	有隣堂東口ルミネ店	16,092	-10%
18	48	京都	京大生協	15,703	74%
19	25	神戸	ジュンク堂ブックセンター	14,996	8%
20	22	神戸	ジュンク堂三宮店	14,783	-6%
21	102	京都	立命館大生協	14,530	199%
22	21	京都	アバンティブックセンター	14,048	-11%
23	24	名古屋	三省堂書店名古屋店	13,815	-7%
24	27	八王子	中大多摩生協	13,682	0%
25	28	広島	紀伊國屋書店広島店	13,625	1%
26	23	横浜	有隣堂西口店	13,124	-12%
27	39	高松	宮脇書店	13,015	28%
28	20	中央	丸善本店	12,787	-23%
29	50	武蔵野	弘栄堂吉祥寺店	12,603	42%
30	34	京都	ジュンク堂京都店	12,528	10%
31	19	渋谷	紀伊國屋書店渋谷店	12,402	-26%
32	31	新宿	芳林堂書店高田馬場店	12,171	2%
33	26	横浜	有隣堂イセザキ店	11,916	-13%
34	33	渋谷	旭屋書店渋谷店	11,626	-1%
35	30	豊島	旭屋書店池袋店	10,587	-18%
36	61	仙台	東北大生協	10,294	39%
37	42	千代田	明治大生協	10,191	1%
38	36	大阪	旭屋書店ナンバ店	10,028	-10%
39	44	千代田	法政大生協	9,944	2%
40	43	大阪	旭屋書店アベノ店	9,690	-3%
41	45	札幌	紀伊國屋書札幌店	9,489	-2%
42	76	立川	オリオン書房ルミネ店	9,389	52%
43	40	札幌	旭屋書店札幌店	9,352	-7%
44	32	大阪	ユーゴー書店	9,346	-20%
45	35	横浜	栄松堂書店相鉄ジョイナス	9,228	-17%
46	38	中央	旭屋書店銀座店	9,065	-15%
47	47	名古屋	名大生協南部	8,805	-3%
48	29	新宿	早稲田本校生協	8,779	-35%
49	15	金沢	うつのみや片町本店	8,759	-59%
50	51	名古屋	ちくさ正文館	8,745	1%
1-50位計				955,257	-3%

表現の禁止を経由する表現

大澤 真幸

(千葉大文学部助教授)

1 表現の禁止の上になつた文化

ユダヤ人は、ことのほか非芸術的な民族だ、ということができるだろう。古代のユダヤ人の活動は、宗教の領域を経由して、現代の文明にまで痕跡をとどめるような明白な影響を残した。またユダヤ人は、その宗教に淵源する特異性のゆえに、つい最近まで——そしておそらく現在も——、ヨーロッパの歴史の中で、否定的なヒーローとでも呼ぶべき役割を果たしてきた。このような宗

教的な豊穡さに比して、ユダヤ人は、芸術的にはあまりに貧困である。

これと対照させることができるのが、古代ギリシアの文化である。ギリシアは、とりわけ芸術の領域において、圧倒的に多くの遺産を残している。周知のように、後代の多くの芸術家たちは、ギリシアの造形芸術に、美の理想を見た。

古代ユダヤの文化（ヘブライズム）と古代ギリシアの文化（ヘレニズム）は、ヨーロッパ文化の二つの基本的

な源流であると思なされている。そして、ヨーロッパにおいてこそ、現在では世界中に流布している「近代」という社会の原型が醸成されたのだ。そうであるとすれば、ユダヤとギリシアは、われわれの現在を規定している二つのベクトルであることになろう。しかし、この二つは、「芸術」ということを準拠にして眺めた場合には、まったく正反対の方向を指している。一方に、芸術の極端な貧しさがあり、他方には、芸術の圧倒的な豊かさがある。なぜ、これほどまでに直接に対立的な二つの傾向があるのか？ このことの秘密は、表現ということに内蔵された、自己矛盾的な構成から解くことができる。

芸術を、表現 expression において快楽を追求する行為である、と定義することができるだろう。表現に用いられた対象が、(他の目的との関係においてではなく、それ自身において) 快楽を与えるとき、その対象の性質を「美」と呼ぶ。美は、いうまでもなく、芸術における行為(表現活動)を一般的に導く至高の価値である。表現は、統一されていながら、区別されていなくてはならない、二つの構成要素から成り立っている。すなわち、「表現さ

れるもの」と「表現するもの(狭義の表現)」との間の特殊な関係が、表現である。

ユダヤ人の文化が、芸術に関して成果をあげることができなかった理由は、さしあたっては、すぐにわかる。この文化は、表現ということに対する根本的な禁止にこそ、基礎づけられているのである。ここで、「表現されるもの」の位置に立つのは、すべての存在の源泉、すなわち「神」である。この禁止は、一般に「偶像崇拜の禁止」と呼ばれ、ユダヤ教の律法の中で、最も重要な項目になっている。

なぜ、神を表現してはならないのか？ 表現は、「表現するもの」が、まさに「表現されるもの」として受け取られることによって可能になる。つまり、二つの契機は等置されなくてはならない。ところが、他方で、表現という関係が成立するためには、二つの契機は区別されていなくてはならない。その意味では、「表現するもの」は「表現されるもの」の否定である。したがって、神を、何らかの知覚可能な像によって表現した場合には、次のような錯認が起こりうる。すなわち、神(表現されるもの)の否定であるはずの像(表現するもの)が、神と等置さ

れてしまうような転倒が生ずるのだ。ユダヤ教においては、神はいかようにしても表現することができない実体である。

このように、ユダヤ人の文化は、表現ということに對する一般的な不信を前提にしている。芸術は、快樂の追求であった。そうであるとすれば、ユダヤ教は快樂原則に對する超越論的な停止を含んでいることになる。また、禁止の奇妙な冗長な性格にも、留意しておく必要がある。禁止は、一般には、可能なことに對してのみ下されうる。ところで、神は、表現不可能な実体なのだから、「偶像崇拜の禁止」は、そもそも不可能なことをあえて禁止する、という構成を取っていることになる。それは、無意味な禁止ではないのか？

さて、これに對して、古代ギリシア文化は、ユダヤ教のような、表現に對する嚴格な禁止を知らない。表現は、素直に自身の快樂を追求し、実り豊かな成果を残したのである。そこでは、神もまた——通常の対象と同様に——表現可能だった。興味深いのは、このとき、神——精神的な個物——は、ユダヤ教の神とは異なり、複数的なものとして存在しているということ（多神教）である。

ただし、古代ギリシアの中でも、すでに、部分的には——いわば先端的な理想の中で——、表現への不信が芽生え始めている。たとえば、プラトンは、絵画の効用を、否認している。プラトンにとっては、絵画は、否定的な意義しかもたない。なぜか？ 絵画の表現（表現するもの）が、「イデア」と錯認される恐れがあるからである。このように、ヘレニズムの中に「表現の禁止」の萌芽が見出されるということは、——少なくとも表現という契機に關しては——、ヘブライズムがヘレニズムに對して論理的に後続するような次元にあるということを、示唆してはいないか？ おそらく、ヘレニズムの中にすでにヘブライズムのなものへと傾斜する要因があったがゆえに、ヘブライズムによるヘレニズムの撰取（たとえばパウロ）が可能だったのであり、二つの文化の融合もありえたのだ。

そうであるとすれば、問われるべきは、表現が、やがて断固たる禁止（偶像崇拜の禁止）に遭遇せざるをえないのはなぜか、である。この問いに、禁止を定位置させている規範＝宗教に内在した解答を与えても仕方がない。たとえば、「神が本源的に表現できないがゆえに」と答え

ても意味がない。それは、単なるトートロジーでしかないからだ。問題は、不可能であるがゆえに禁止されてしまう（しかし、すでに述べたように、これは本当は冗長である）「神」のような実体が、なぜ存在するのか——なぜ指定されているのか——、なのだから。

神に対するいかなる表現も許されていなかったのに、ユダヤ人が、神の積極的な実在を信じて疑わなかったということは、奇妙なことである。いかなる表現も持ちえない以上は、神の存在を直接に知覚することはできないのだから。ここから、逆に、次のように推論すべきではないか？ 神の超越的な実在は、むしろ、密かに表現されているのではないか、と。このとき、何が「表現するもの」になりうるか？ 表現の不可能性という、その性質である。まさに表現が不可能だということによってこそ、神が、「いかようにしても表現されえない何か」として表現されてしまうのだ。つまり、神は「表現されえない」という否定の媒介にして、表現される。神は、直接の表現、直接の現前の否定を経由する、間接的な仕方である。表現されるのである。こうして表現される実体 \parallel 神は、どうしても超越的なものであるほかない。それは、(通

常の) 表現するもの」がその内部で立ち現れる宇宙の外に、存在の場をもつしかないのだから。スラヴォイ・ジジエクは、カントの「物自体」が、これと同型的な否定的な現れをもつことを論じ、さらにこのことを、ここのわれわれの議論と同じように、ユダヤ教の問題に拡張している(↓文献表参照)。

2 表現の構造

表現を形成する二つの要素の間には、明白な非対称性がある。一方で、たとえば x として表現される対象は、まさに「 x 」として端的に指定されるような同一性 \parallel 統一性を有する。「表現されるもの」は、必ず、同一性 \parallel 統一的对象として存在するしかない。他方、「表現するもの」が、感覚や知覚において受容されるためには、それは、多様性の中の一目目として、つまり多様なものの中におけるそれと他なる部分との差異を介して、認知されるしかない。だから、「表現するもの」は、差異性として存在する。したがって、表現には、「同一性 \parallel 統一性」から「差異性 \parallel 多様性」への、対象の存在性格の明確な移行が含意されている。

「表現されるもの」の同一性は、「表現するもの」のさまざまなレベルにおける「形式」との対応によって、知覚可能なものになる。ここで、形式というのは、ある存在者が、他との差異に媒介されて獲得する同一性のことである。つまり、形式とは、同一性の外観をもった差異のことである。形式にとつて本質的なのは、他の諸形式との間の差異Ⅱ関係である。それゆえ、形式は、諸形式の間の共時的・通時的な関係を規制する「規則」と連接することによって機能することができる。芸術においては、この規則が、「様式」を構成する。

たとえば、音楽においては、個々の音が、形式を構成する。長音階の各音は、他の六音との差異によって——つまり他の六音を否定することによって——同一性を得る。多数の形式の集合は、より上位の形式を構成する。一定のパターンの音の連なりである「モチーフ」が、音の上位の形式を構成し、モチーフのさらに上位には、形式としての「作品」を位置づけることができるだろう。逆に、各音を音価・強度・音色のような諸パラメータに分解すれば、個々の音よりもさらにミクロな諸形式を得ることもできる。様式は、このような形式の諸水準に対

応して存在する。形式としての和音に対応する様式は、たとえば機能と声で書かれた調性音楽であり、和音連接の一定のパターンがこれによって指定される。また音やモチーフの連結の規則として、個人様式や時代様式を捉えることができるだろう。

繰り返して述べれば、表現には、異なる存在の様態の移行が、すなわち同一性と差異性の交錯が含意されている。つまり、表現とは、同一性を差異性(形式)によって提示することなのだ。もちろん、このような交錯には、矛盾がある。

表現するもの(形式)の本性が差異であるということでは、表現が本源的に偶有的なものである、ということである。対象 x を表現する操作は、他の可能性、つまり「対象が x ではない可能性」を否定する操作でもある。つまり、「 x に対する表現」は、他のもろもろの可能性を背景にして、それらの中から選り取られることによって成立するのである。それゆえ、一個の表現は、他なる諸可能性を排除してしまうことができず、自身が成立するため「地」としてそれらを潜在的に維持しておかなくてはならない。表現が、このように潜在的な諸可能性からの

選択として成立するということは、表現されるべき対象が（潜在化されている）「他」でもありえたかも知れない、ということである。表現が選択として成立するためには、それが、潜在的な他の諸可能性の方へとスライドし、受け渡されて行きうる、ということが想定されていなくてはならないのだから。表現が、偶有的である——可能ではあるが必然ではない——というのは、このような意味においてである。

ここでは、それゆえ、表現という関係の次のような限界が露呈している。表現されるべきものは、端的な同一性を備えた実体、すなわち「他でもないそれ」として指示されなくてはならない。にもかかわらず、対象は、「他でありえたかもしれない何か」として、表現されてしまう。このようなギャップは、同一性を差異性に等置する表現の本質的な構造から、必然的に生ずるものである。しかし、このようなギャップ、このような矛盾は、芸術の通常の活動の中では、まったく気付かれていない。なぜだろうか？

「表現されるもの」が、表現という行為とは独立に、端的な同一性を備えた実体として（経験的な）宇宙に内在

している、ということに対する盲目の信頼があるとき、表現をめぐる論じてきたような齟齬は、直接には現れない。このような実体は、表現に先立ってア・プリオリに存在しているものと、想定される。「表現するもの」の形式は、この実体と何らかのやり方で対応づけられることによって——たとえば実体の再現と見なされたり、直接の模写として受容されることによって——、「差異」としての本性を隠蔽することができるのである。もちろん、実際には、形式が他の諸形式との対立や差異によって機能しているという事実は、消去されない。しかし、形式が、他との差異によって水平的に規定されているということとは独立に、外的な実体によって垂直的に支えられていると認識されるとき、形式が一個の差異であったという事実は、派生的なことがらとして、無害化されてしまうのだ。「表現するもの」がある特定の「形式」を採ることの根拠が、その形式が他の諸形式との間に張る差異ではなく、表現される「実体」との（自然な）対応関係に求められるからである。

古代ギリシアにおいて芸術のおおらかな発展があったのは、このためである。表現を支持する諸実体は、（たと

えば)ギリシアの神々である。ギリシアの神々は、宇宙の内部に与えられている精神的な本質のようなものとして、直接に宇宙に内在している。神の複数は、神が宇宙に内在する実体として措定されていることの、不可避の結果である。神々が、宇宙の内部の存在者の多様性を映し出すわけだ。ギリシアの宗教の在り方と芸術の発展とは、緊密に結びついていたのである。

しかし、これら諸「実体」の存在も、実際には、表現を媒介にしないで知りえない。そうであるとすれば、むしろ、「実体」は、表現するものの「形式」が与える仮象ではないか、と捉え直すことができるだろう。すなわち、表現が遂行されるとき、表現(あるいは形式)を可能にする条件として、あとから「実体」の積極的な実在が補われるのである。表現が、むしろ、自身を可能にする前提そのものを、あとから生み出しているわけだ。もし、このように表現と実体との関係が逆転すれば、表現ということ自身が、その積極的な意義を失うことになるだろう。表現されるべき実体は、形式の与える仮象であって、そもそも存在していないのだから。

このような「実体」の還元が可能であるためには、表

現の「形式」の作動が、安定的に確保されていなくてはならない。つまり、差異を介して与えられる形式の(派生的な)同一性が、一義的に規定されていなくてはならない。形式は、すでに述べたように、他の諸可能性の否定を通じて選択されることで、その同一性を得る。そうであるとなれば、形式の同一性は、形式の選択前提となるような諸可能性の領域が確定されている場合にのみ、規定可能である。

このような諸可能性の領域を、地平と呼ぶ。諸可能性の全体としての地平を、完全に規定しつくすことは、原理的にできない。仮にある地平が規定されたとしても、地平が規定されるということは、地平自身が、特定の形式を通じて表現されていることを含意する。そうであるとなれば、地平自身を表現する形式が、再び偶有的な存在として、より包括的な地平の中に置かれていなくてはならないはずだ。こうして、地平の全体には、いつまでも到達することができない。地平の最高度に包括的な形態が宇宙である。それゆえ、ここで問題になっているのは、宇宙を全体として表現することの一般的な不可能性である。

しかし、形式の確実な作動は、地平が規定されてあることを条件とする。だが他方で、もし地平を（とりわけその包括的形態としての宇宙を）何物かによって積極的に表現しようとすれば、地平（宇宙）は偶有的なものとして示されることとなる。形式が偶有的な存在でありながら、（派生的な）同一性を獲得できるのは、地平が、形式（を構成する選択）にとつて与えられた前提であつて、必然であるからだ。もし地平が（とりわけその最終的な形態としての宇宙が）偶有的なもの、他でもありうる相対的なものとして表現されてしまえば、形式の同一性が完全に決定不能なものとなり、ことごとく散開してしまふことになるだろう。つまり、ある形式が、「x に対する表現」であることが、「y に対する表現」であるということとを否定できず、結局何物への表現としても機能しないことになる。

この場合、地平＝宇宙の偶有性を隠蔽し、それを規定する唯一の方法は、何物によつても積極的に表現できない、という否定性によつて、地平の全体性を表現することである。偶像崇拜の禁止とは、まさにこのような方法なのだ。あらゆる存在の代表である神は、もちろん、地

平の全体性（宇宙）に対応している。ユダヤ教の神は、どうしても唯一神（単一の神）でなくてはならない。それは、地平の最高の包括性を代表しており、その外部を許容しないからである。またその神は、ギリシアの「宇宙に内在する神々」とは異なり、どうしても純粹に超越的なものでなくてはならない。それは、宇宙の内部に積極的な表現をもたないという条件の下でのみ、存在することができるところである。

それゆえユダヤ教の下では、表現に値するものは、たった一つしかない。唯一の実体としての神である。しかも、その表現の仕方は、否定的なものである。つまり、表現の禁止というやり方によつてのみ、それは表現されるのだ。ここでは、表現への一切の意志が、この否定的な表現に集約され、奪われてしまつてゐるのだ。ユダヤ教の下での表現の貧しさは、表現の快楽が單純に抑圧されていることの帰結ではなく、快楽が、抑圧された形態においてのみ可能であるような不可視の表現の方へと逸れていったことの結果である。表現の貧しさは、表現への溢れんばかりの意志が、しかも、まさに表現が禁止されているその場所に集中したことの、逆説的な産物なの

である。

3 音楽の近代史

ここまで、古代ギリシアと古代ユダヤを対照させながら見てきた、表現をめぐる連関は、歴史的なものというより、論理的なものである。それゆえ、これは普遍的なものであり、表現（芸術）の歴史の各所に、これと同型的な関係を見出すことができるはずだ。たとえば、ここでは、西欧音楽の近代史（一九世紀から二〇世紀にかけての音楽の展開）の中で音楽が被った変容を参照してみよう。

一九世紀の西欧音楽の主流は、ロマン派である。ロマン主義の目立った特徴は、——とりわけそれに先立つ古典派との対照において目立っているのは——、音楽における合理的な「形式」の意義の後退である。言い換えれば、諸「形式」を支配する慣用的な規範の重要度が相対的に低下し、そこから逸脱した自由な「表現」が頻繁に現れるところに、この時代の音楽の特徴がある。古典派からロマン派への転換のちょうど境界線に在るのが、ベートーベンである。ロマン派のこのような特徴は、古

典派の完成者であるモーツァルトとロマン派へと足を踏み入れたベートーベンを比較してみれば、明白である。ロマン派において、「形式」の意義が後退しているのはなぜか？

形式が、より一層重要な要素に従属しているからである。そのような要素とは、ロマン派の場合は、もちろん、表現する主体（個人）の「内面」に存在すると仮定された、心理的な内容である。ロマン派のもとでは、表現は、このような主体的・主観的な内容（感情）の外化と同一視される。そのような「内容」自身は、表現（するもの）の諸関係の外部に存在する「実体」である。しかし、この実体は、経験的な宇宙の内部には、確固たる存在の場を有している。諸個人の「内面」が、そのような場である。このとき、諸形式の間の機械的な関係は、心理的な内容に比して二次的なものと見なされ、形式や様式からの逸脱が、まさに形式や様式に還元しきれない実体（としての主観的な内容）の存在を指示するものとして、援用されることになる。

先に、形式の差異としての本性は、（宇宙に内在するが、表現にとっては外的な）「実体」についての仮定に

よって無害化される、と述べておいた。このことは、ロマン主義のやり方の中に典型的みることができる。特定の形式——たとえば特定のライトモチーフ——（やそこからの逸脱）が採用されるのは、まさに、内面の感情に即して自然だからであり、それを「美」として認定する感情が、内面の本性として仮定されているからである。

特定の形式がそこにおいて現れることの正当性は、形式の間の関係（のみ）に求める必要はなく、このような内面の心理的な内容についての仮定から導出されるのだ。ロマン主義の音楽表現のこのような構成は、オペラにおいて典型的に見ることができ。ここでは、登場人物の内面の感情にふさわしい表現の形式が必ず選択され、感情と形式の不協和は慎重に排除されている。

ときには、このような内面の内容は、素朴な「自然の感情」とは区別され、それ自身、特殊な理想化を被る場合もある。すなわち、無自覚な直接の感情ではなく、たとえばモチーフ群の手法に通じ、それらを分析的に理解することができる精神こそが、作曲家（そして演奏家）と聴取者に求められるわけだ。そのような知的な精神は、高次の——したがって本来的に自然な——内面的な

感情であると見なされる。内面の感情のこのような（知的なものへの）理想化は、形式に対する主観的な内面の支配の関係を厳密化しようとすることから帰結するものだと言うことができるだろう。

このような心理的な内面の支配が、ロマン派にふさわしいさまざまな文化的な形象を生み出すことになる。作品を創作する側に関していえば、たとえば「天才」への信仰が、そのような形象の一つである。作品を聴取する側においては、（感情の理想化に対応して）理想化された聴取者や嚴格に規律化された集中的な聴取の態度が、一九世紀に生まれる。ロマン主義においては、「実体」として作品の外部に——そして宇宙の内部に——仮定されている心理的な内面が、ちょうど、ギリシア芸術における、神々の位置に対応する。「内面」と「神々」は、もちろん、それ自身として比較すれば、まったく異なった内実をもっている。しかし、両者は、表現という働きの中で果たす役割に着眼してみれば、まったく等価な機能を果たしていることがわかる。ロマン主義の表現としての多様性は、こうして、支えられているのである。

ところが、ロマン主義に後続する二〇世紀前半の前衛

音楽は、ロマン主義からの自覚的で徹底的な離脱によってこそ特徴づけられる。それは、一口で言えば、「音楽の形式化」の試みだったといえることができるだろう。二〇世紀の前衛音楽は、形式とそれを律する規則である様式とを、厳密に体系化しようとする。この試みを、(「表現するもの」の側からではなく)逆に「表現されるもの」の側で捉えれば、主観的な「内面」を還元しようとする運動だといえることができる。形式の極大化と内面の極小化とが、ちょうど釣り合っているわけである。

形式化の運動を典型的に代表しているのが、十二音技法やトータル・セリーの音楽である。十二音技法とは、半音階に含まれている十二の音を一定の序列にそって並べた基本音列をつくった上で、この基本音列から、作品内のすべての音列を、特定の手続きに準拠して体系的に導出する手法である。調性音楽の場合には、音高を、恣意的に偏った形で利用する。つまり、それは、音高を不完全に支配するだけである。それに対して、十二音技法は、自覚的に設定された抽象的な規則に従うことで、音高構造を、すみずみまで統御することになる。トータル・セリーは、十二音技法の一般化である。すなわち、

十二音技法が音高に対して適用した音列技法を、音価、強度、音色といった音についての他のパラメータにまで拡張したのが、トータル・セリーなのだ。まずリズム、強弱、アタックを音高と同じように排他的な形式に区分する。その上で、十二音技法と同様に、音列を体系的に組織し、制御するのである。

このように、自覚的に設定された規則にのみ準拠すれば、特定の音列の選択が、内面的な感情・感性への適合度——そのような感情・感性を表現するのにより妥当である(自然である)ということ——によって、恣意的な仕方で正当化されることはなくなる。つまり、形式化は、内面への積極的な指示連関を失ってしまうのである。

要するに、形式化とは、音楽を形式のみによって成る閉じられたシステムとして構築し、特定の形式の特定の現れを音楽に外在する実体の働きによって正当化することを拒否することなのである。形式の使用は、それ自身によって、つまりもっぱら形式の間の関係のみによって規制される。もはや、未規定な「実体(内面)」の働きが、音楽の形態を自然に限定することを期待することはできない。その補償として、形式を産出するために設定され

た規則の体系は、より整備された、しかも複雑なものでなくてはならない。しかし、このような明示的な規則の複雑化は、逆に、暗黙の制限を含む実質的な規則を減少させることでもある。自覚的に設定されている複雑な規則にしたがいさえすれば、どのような表現も許されるからである。こうして、音楽の形式化は、音楽的な表現の自由度（可能性）を上げることにつながる。ところが、逆説的なことに、表現の自由度の上昇は、かえって、表現としての音楽を貧困なものにしてしまう。生み出されてくる音の集合は、何に對する表現であるかという点に關して、まったく未規定で宙に浮いてしまい、単に機械的な規則に厳密に従った音列であるということ以上のものではなくなってしまうからである。単に機械的な規則から産出される可能な変異の一つであるに過ぎない音列は、当然、調性音楽の視点からみて不協和なものを数多く含み、聴くものに「快樂」を引き起こすものではないので、とうていそこに「美」の表現を認めることができないのだ。

形式化された音楽は、音楽の外部の実体を表現することに對する禁止に従っているのである。それは、音楽に

外在しつつ、音楽的な表現に限定を加えるような（音楽にとつて）超越的な実体を、積極的に表現することを、自らに對して厳しく禁じている。この禁止は、音楽における「偶像崇拜の禁止」である。音列を生み出す厳格な規則への忠実さは、音楽における律法主義のようなものだ。つまり、二〇世紀前中期の前衛音楽は、音楽のパリサイ派だということができるだろう。表現の貧困さ、つまり論理的な体系性はあっても不協和性が高く、ロマン主義がもっていたような豊かな情感から撤退してしまつたということ、このことは、芸術におけるユダヤ人の貧困を思わせる。

だが、ユダヤ教が、表現の禁止によって、あるいは表現の不可能性によって、神の積極的な実在を間接的に表現したのと同じような關係が、このような音楽においても生ずる。聞くものに快樂を与えない——むしろ不快感すらもたらす——不協和な音列は、確かに、それ自体としては貧困な表現だという印象を与えるが、表現の機能を失うわけではない。それが表現たりうるのは、音列技法が生み出す可能的・現実的な音の集合の全体の中に位置づけられた場合には、そしてその場合にのみ、他の諸

音との関係が明確になり、一個の形式として機能するからである。表現の機能を担っているのは、それぞれの音ではなく、この音の形式の集合という全体なのである。つまり、これらの音楽は、音楽の外部を直接に表現することを禁欲し、形式の内部に閉じ籠もることで、形式の体系を全体として、操作する精神の働きを、間接的に表現することになる。個々の形式それ自身としては、何物かを表現するわけではない。しかし、形式の全体は、体系的な秩序（美的な秩序）をもっており、そのことによって、このような秩序を選択する能動的な働きを暗に指示してしまうだろう。たとえばロマン主義の音楽のように、直接に内面が表現し外化される場合には、内面のよくな実体は、形式の間の差異の中でやがて相対化される。だが、形式化を経由することで、超越的実体が直接的な表現から逃れ、形式の間の関係の全体性によって間接的に表現されるだけであれば、このとき、その超越的な実体は、相対化される恐れはない。もはや、それ以上の外部をもたない形式の集合の全体のみが、そのような実体に対応しているのだから。したがって、この場合も、直接には表現されないという否定性によって、音楽に外

在する超越的な働きが——直接に表現される場合よりもかえって純粹に——表現されるのである。ところで、われわれは、ユダヤ教のあとに、キリスト（神）の死によって画される決定的な転換がやってくることを知っている。実際、音楽芸術の現代史にも、これに対応するような劇的な変化が待っている。

文献リスト

■ 1 表現の基本構造を考える

- カント 『判断力批判』岩波文庫
- ヘーゲル 『美学』岩波書店
- バウムガルテン 『美学』玉川大学出版部
- ソルガー 『美学講義』玉川大学出版部
- パウエル 『美学入門』白水社
- ハチスン 『美と徳の觀念の起源』玉川大学出版部
- 金田晋 『芸術作品の現象学』世界書院
- ライプニッツ 『单子論』岩波文庫（↓中央公論社「モノドロジー」『世界の名著』）
- スピノザ 『エティカ』岩波文庫

ドゥルーズ 『意味の論理学』 法政大学出版局
ドゥルーズ 『差異と反復』 河出書房新社
ドゥルーズ 『ブルーストとシーニュ』 法政大学出版局
デリダ 『グラマトロジーについて』 現代思潮社
デリダ 『声と現象』 理想社

カッシーラー 『象徴形式の哲学』 岩波文庫
スペンサー・ブラウン 『形式の法則』 朝日出版社

大澤真幸 『行為の代数学』 青土社
加藤尚武 『形の哲学』 中央公論社

松浦寿輝 『口唇論』 青土社

井筒俊彦 『意識と本質』 岩波書店

坂部恵 『仮面の解釈学』 東京大学出版会

大森荘蔵 『新視覚新論』 東京大学出版会

フッサール 『論理学研究』 みすず書房

ニーチェ 『悲劇の誕生』 岩波文庫

■ 2 言語による表現の構造を考える

ロラン・バルト 『零度の文学』 現代思潮社
クリステヴァ 『セメイオチケ』 せりか書房
クリステヴァ 『記号の横断』 せりか書房
丸山圭三郎 『ソシュールの思想』 岩波書店
フーコー 『知の考古学』 河出書房新社
廣松渉 『もの・こと・ことば』 勁草書房
柄谷行人 『隠喩としての建築』 講談社

ソール・クリプキ 『名指しと必然性』 産業図書
デイヴィッドソン 『真理と解釈』 勁草書房
J・L・オースチン 『言語と行為』 大修館書店
ショショナ・フェルマン 『語る身体のスキャンダル』 勁草書房

橋元良明 『背理のコミュニケーション』 勁草書房
J・サール 『言語行為』 勁草書房
チョムスキー 『デカルト派言語学』 みすず書房

レイコフ 『認知意味論』 紀伊國屋書店
オグデン&リチャーズ 『意味の意味』 新泉社

吉本隆明 『言語にとって美とは何か』 角川文庫

蓮實重彦 『反一日本語論』 筑摩書房

■ 3 表現の基底としての身体を考える

メルロ・ポンティ 『知覚の現象学』 みすず書房

メルロ・ポンティ 『シーニュ』 みすず書房

メルロ・ポンティ 『眼と精神』 みすず書房

メルロ・ポンティ 『見えるものと見えないもの』 みすず書房

房

市川浩 『精神としての身体』 勁草書房

市川浩 『私さがし』 と『世界さがし』 岩波書店

尼ヶ崎彬 『ことばと身体』 勁草書房

大森荘蔵ほか 『心・身』 の問題』 産業図書

菅孝行 『関係としての身体』 れんが書房新社

亀井秀雄 『身体・表現のはじまり』 れんが書房新社
佐々木正人 『からだ 認識の原点』 東京大学出版会
マーク・ジョンソン 『心のなかの身体』 紀伊國屋書店
竹内敏晴 『ことが劈かれるとき』 思想の科学社
野口三千三 『原初生命体としての人間』 三笠書房

■ 4 表現の社会的基盤を考える

ワイトゲンシュタイン 『哲学探究』 大修館書店
クリプキ 『ワイトゲンシュタインのパラドックス』 産業図
書

廣松渉 『世界の共同主観的存在構造』 勁草書房
廣松渉 『存在と意味』 岩波書店

中井正一 『美と集団の論理』 中央公論社

中村雄二郎 『共通感覚論』 岩波書店

大澤真幸 『身体の比較社会学』 I II 勁草書房

いとうせいこう 『ゴドーは待たれながら』 太田出版

柄谷行人 『探究』 I II 講談社

赤間啓之 『ラカンあるいは小説の視線』 弘文堂

小笠原晋也 『ジャック・ラカンの書』 金剛出版

クリステヴァ 『恐怖の権力』 法政大学出版社

ヴィクター・ターナー 『儀礼の過程』 思索社

ヴィクター・ターナー 『象徴と社会』 紀伊國屋書店

竹内芳郎 『文化の理論のために』 岩波書店

■ 5 表現と宗教の関連を考える

ヘーゲル 『精神の現象学』 岩波書店
ヘーゲル 『宗教哲学』 岩波書店

フォイエルバッハ 『キリスト教の本質』 岩波文庫

ジジューク 『イデオロギーの崇高な対象』 『批評空間』 連載・

近刊)

ルネ・ジラール 『暴力と聖なるもの』 法政大学出版社

ルネ・ジラール 『欲望の現象学』 法政大学出版社

ルネ・ジラール 『身代りの山羊』 法政大学出版社

山口昌男 『文化と両義性』 岩波書店

折口信夫 『国文学の発生』 中公文庫

ファンデルレーウ 『芸術と聖なるもの』 せりか書房

■ 6 表現の歴史的変形を考える

フリーコー 『言葉と物』 新潮社

レヴィーストローズ 『野性の思考』 みすず書房

ロラン・バルト 『神話作用』 現代思潮社

マックス・ウェーバー 『音楽社会学』 創文社

大澤真幸 『資本主義のパラドックス』 新曜社

佐藤健二 『読書空間の近代』 弘文堂

吉見俊哉 『博覧会の政治学』 中央公論社

W・J・オング 『声の文化と文字の文化』 藤原書店

マクルーハン 『メディア論』 みすず書房

ボードリヤール 『シミュレーションとシミュラクル』 法

政大学出版局

ボードリヤール 『象徴交換と死』 筑摩書房

ルロワ・グーラン 『身振りと言葉』 新潮社

多木浩二 『眼の隠喩』 青土社

多木浩二 『欲望の修辞学』 青土社

小町谷朝生 『視覚の文化』 勁草書房

作田啓一 『個人主義の運命』 岩波新書

蓮實重彦 『物語批判序説』 中央公論社

蓮實重彦 『凡庸な芸術家の肖像』 青土社

■ 7 芸術における表現を考える

パノフスキー 『視覚芸術の意味』 岩崎美術社

パノフスキー 『イコノロジー研究』 美術出版社

高階秀爾 『西欧芸術の精神』 青土社

高階秀爾 『想像力と幻想』 青土社

ヘルダー 『彫塑』 中央公論社

金田晋 『絵画美の構造』 勁草書房

八束はじめ 『空間思考』 弘文堂

ウイム・メルテン 『アメリカン・ミニマル・ミュージック』

冬樹社

小林秀雄 『モーツアルト』 角川文庫

浅田彰 『ヘルメスの音楽』 ちくま文庫

松岡心平 『宴の身体』 岩波書店

細川周平 『ウォークマンの修辞学』 朝日出版社

アンドレ・バザン 『映画とは何か』 美術出版社

大澤真幸 (おおさわ・まさち)

一九五八年長野県生まれ。東京大学大学院博士課程了

著書に『行学の代数学』(青土社)、『資本主義のパラドックス』(新曜社)

『身体と比較社会学』I・II (勁草書房)

訳書に『スペンサー・ブラウン』『形式の法則』(朝日出版社)

専攻：社会学

一九九二年 人文会各社の受賞図書一覽 (アイウエオ順)

- ・アジア・太平洋賞
 - ・竹田いさみ著「移民・難民・援助の政治学」(勁草書房)
 - ・日本エッセイスト・クラブ賞
 - ・山根炳根著「鹿野忠雄」(平凡社)
 - ・大平正芳記念賞
 - ・山影進著「ASEAN—シンボルからシステムへ」(東京大学出版会)
 - ・吉川洋子著「日比賠償外交交渉の記録」(勁草書房)
 - ・角川源義賞
 - ・信多純一著「近松の世界」(平凡社)
 - ・高知出版学術賞
 - ・宮地佐一郎編集・解説「中岡慎太郎全集(全一巻)」(勁草書房)
 - ・今和次郎賞
 - ・小川信子編「子どもと住まい」(勁草書房)
 - ・サンケイ児童出版文化賞
 - ・河合雅雄著「小さな博物誌」(筑摩書房)
 - ・サントリー学芸賞
 - ・倉沢愛子著「日本占領下のジャワ農村の変容」(草思社)
 - ・坂本一登著「伊藤博文と明治国家形成」(吉川弘文館)
 - ・新村拓著「老いと看取りの社会史」(法政大学出版局)
 - ・中川真著「平安京 音の宇宙」(平凡社)
 - ・波沢・クロードル賞
 - ・梅本洋一著「サツシャ・ギトリ」(勁草書房)
 - ・青少年読者感想文
 - ・全国コンクール中学校の部
 - ・門田修著「南の島へいこうよ」(筑摩書房)
 - ・中小企業研究奨励賞
 - ・三井逸友著「現代経済と中小企業」(青木書店)
 - ・東方学芸賞
-
- 今西順吉著「漱石文学の思想」(第一部・第二部)(筑摩書房)
 - ・土木学会出版文化賞
 - ・高橋裕著「河川工学」(東京大学出版会)
 - ・日経・経済図書文化賞
 - ・鶴見誠良著「日本信用機構の確立」(有斐閣)
 - ・河口治夫著「日本企業の海外直接投資—アジアへの進出と撤退」(東京大学出版会)
 - ・日本翻訳出版文化賞
 - ・前島信次・池田修訳「アラビアンナイト」(平凡社)
 - ・日本翻訳大賞
 - ・クリフォード・ストール著 池央耿訳「カッコウはコンピュータに卵を生む」(草思社)
 - ・NIRA政策研究・東畑記念賞
 - ・松下圭一著「政策型思考と政治」(東京大学出版会)
 - ・発展途上国研究奨励賞
 - ・中西徹著「スラムの経済学—フィリピンにおける都市インフォーマル部門」(東京大学出版会)
 - ・ピーコ・アッラ・ミランドラ賞
 - ・エウジニア・リコッテイ著/武谷なおみ訳「古代ローマの饗宴」(平凡社)
 - ・毎日出版文化賞特別賞
 - ・網野善彦ほか編「大系日本 歴史と芸能」(平凡社)
 - ・南日本出版文化賞
 - ・川崎晃稔著「日本丸木舟の研究」(法政大学出版局)
 - ・倫雅美術奨励賞
 - ・岡泰正著「めがね絵新考」(筑摩書房)
 - ・路傍の石文学賞
 - ・長谷川集平著「鉛筆デッサン小池さん」(筑摩書房)

人文会会員名簿

(〒111 台東区蔵前 2-6-4 筑摩書房内)

1993. 2. 現在

	社名	担当者	〒	所在地	電話	FAX	
幹事	青木書店	古川 清	162	新宿区早稲田鶴巻町 538	3202-3999	3204-1187	
	大月書店	原田 敦雄	113	文京区本郷 2-11-9	3813-4651	3813-4656	
	御茶の水書房	平石 修	113	文京区本郷 5-30-20	5684-0751	5684-0753	
	紀伊國屋書店	尼子 英二	156	世田谷区桜丘 5-38-1	3439-0128	3439-3955	
	勁草書房	氏家 富男	112	文京区後楽 2-23-15	3814-6861	3814-6854	
	社会思想社	清水 博	113	文京区本郷 3-25-13			
				中銀本郷 3 丁目ビル	3813-8105	3813-9061	
幹事	春秋社	神田 治	101	千代田区外神田 2-18-6	3255-9611	3253-1384	
	晶文社	萬洲 隆男	101	千代田区外神田 2-1-12	3255-4501	3255-4506	
	誠信書房	濱地 正憲	112	文京区大塚 3-20-6	3946-5666	3945-8880	
	創元社	重光 義彦	162	新宿区山吹町 334-11	3269-1051	3269-1092	
	草思社	小林登美夫	150	渋谷区神宮前 4 -26-26	3470-6565	3470-2640	
	代表幹事	筑摩書房	菊池 明郎	111	台東区蔵前 2-6-4	5687-2680	5687-2685
		東京大学出版会	竹内 康一	113	文京区本郷 7-3-1		
			東京大学構内	3811-8814	3812-6958		
幹事	日本評論社	菅田 誠	170	豊島区南大塚 3-10-10	3987-8621	3987-8590	
	福村出版	土屋知可夫	112	文京区小石川 1-3-17	3813-3981	3818-2786	
	平凡社	丸山 正美	102	千代田区三番町 5 Kビル	3265-0455	3263-9333	
	法政大学出版局	市川 昭夫	162	新宿区市谷田町 2-14-1	5228-6271	5228-6010	
	みすず書房	福田 晴行	113	文京区本郷 5-32-21	3814-0131	3818-6435	
	未來社	西谷 雅英	112	文京区小石川 3-7-2	3814-5521	3814-8600	
	雄山閣出版	武 一雄	102	千代田区富士見 2-6-9	3262-3231	3262-6938	
幹事	有斐閣	高橋 睦美	101	千代田区神田神保町 2-17	3265-6811	3262-8035	
	吉川弘文館	阿部 昇	113	文京区本郷 7-2-8	3813-9151	3812-3544	
販売企画委員会 ◎重光 ○清水 古川 小林 丸山							
弘報委員会 ◎原田 ○西谷 尼子 濱地 竹内 土屋 高橋							
調査・研修委員会 ◎阿部 ○氏家 萬洲 菅田							
図書館委員会 ◎市川 ○福田 神田							

ジュリア・クリステヴァ 西川直子訳

サムライたち

〈知〉が沸騰した時代を背景に、バルト、フーコー、デリダ、ラカン、ソレルスら、知の冒険者たちの壮烈な生と死、さらに多重的にくりひろげられる官能的な愛の物語を描いた華麗なる自伝的回想。クリステヴァ初めての小説。定価3200円税込

筑摩書房

東京台東 蔵前2-6-4

「未曾有の時代の未曾有の記録復刊」

明治文化全集

明治文化研究会編 編集代表 吉野作造

菊判特上製・貼箱入・白糸組・平均600頁・別巻1500頁
●堂々完結ノ(全28巻・別巻1) セット定価 60万円

豊島区南大塚3の10の10 ☎03-3987-8621 日本評論社

東京大学出版会

荒野泰典・石井正敏・村井章介編 ●全6巻

アジアのなかの日本史

III 海上の道 A5判/三七〇八円(税込)

列島と他地域との通行関係を扱ったヒト、海の上を行き来したモノを追究する「海上の道」を見出し、さらに前近代のヒト・モノ・セニの実態、その意味を考察する。

五味文彦 A5判/二八八四円(税込)

武士と文士の中世史

「武士の時代」中世は武士の時代でもあった。朝廷の裁判機構の中で、在地支配の要・受領の目代となって、実務官人層として成長した文士は武士とともに鎌倉幕府を作り上げる。説話や絵巻物なども駆使しつつ、中世の時代相を描く。

阿部 洋著 定価一四〇〇〇円

中国近代学校史研究

清末における近代学校制度の成立過程
従来の研究に欠落していた歴史・社会的文脈からの新しい研究。

森川 直著 定価八五〇〇円

ペスタロッチー教育思想の研究

ペスタロッチーの著作と教育的生涯とのかかわりの分析から、彼の思想の形成過程を位置づける。

東京・文京 福村出版 電話 (03) 小石川1-3 *定価は税込* 3813-3981

ドーミエ 版画集成

監修・阿部良雄 全3巻 [内容見本呈]

詩人ボードレールが「偉大な諷刺画家」と称賛したドーミエ。その石版画の精髓約680点を収録。奔放的確なデフォルメ、微妙な黒の世界が精巧な印刷でよみがえる。〈政治家さまざま〉〈劇場と法廷〉〈パリ生活〉の3分冊。巻数順に配本。第1巻・12月18日刊。B4変型平均250頁。 定価 各¥20,000(税込)

東京文京本郷
3丁目17-15

みすず書房

最新の研究成果を大胆に取り入れた大事典 いよいよ刊行開始!

日本史大事典

全7巻
本巻1巻
索引1巻

平凡社創業80周年記念出版

編集委員 青木和夫／網野善彦／大津透／佐藤進一／高木昭作
塚本学／坪井清足／橋本義彦／坂野潤治／山崎広明

項目数約25,000 執筆者数約2,000名 図版数約4,000点
カラー別刷各巻16ページ 各巻平均1,300ページ A4変型判・3段組

●各巻定価15,000円(税込)
第1巻絶賛発売中、第2巻2月下旬発売

平凡社 〒102 東京都千代田区三番町5
振替・東京0-29839 ㊑03-3265-0455

未来社

ハムレットマシーン
(ハイナー・ミュラー・テクスト集I)

H・ミュラー著
岩淵・谷川訳

2884

ウェーバー歴史社会学の立
歴史認識と価値意識

安藤英治著

8034

批評の機械I

政治の挑発
粉川哲夫著

2575

開かれた社会—開かれた宇宙
(ポイエーシス叢書14)

ボレ、クロムアイ
小河原 誠訳

2060

哲学の使命
ヘーゲル哲学の
精神と世界

加藤尚武著

3296

価格は税込 東京都文京区小石川3-7-2
電話(03)3814-5521 〒112

法政大学出版局

B. A. ヘニッシュ
— 中世の食生活 —

食事の時間と回数、献立、調理師と台所、食卓、作法など、西洋13~15世紀の聖書と教会の影響下における禁欲と宴の食生活を、膨大な古資料をもとに描く。藤原保明訳/4944円

R. P. ホムメル
— 中国手工業誌 —

多数の道具写真を含む膨大な資料と考古・民族・民俗の知見を駆使して近代以前の中国技術の先進性を実証し、東西の物質文化比較研究への展望をひらく。国分直一訳/14,935円

〒162 東京都新宿区市谷町2-14-1
☎03-5228-6271 振替・東京6-95814

古代を難波 直木孝次郎編 一九八〇円

中世を考える 都市の中世 五味文彦編 二二〇〇円

徒然草を解く 山極圭司著 一九八〇円

日本交通史 児玉幸多編 二八〇〇円

中世の村と流通 石井進編 六八〇〇円

吉川弘文館
東京都文京区本郷7-2・電03-3813-9151

狩人の大 絵圖から読み解く人と景
オーストラリア・アポリジニの世界
●小山修三著 定価1980円

森林環境と 暦と日本人
●内田正男著 定価1980円

流域社会
●北尾邦伸著 定価4800円

観の歴史
●小椋純一著 定価4500円

雄山閣 *価格は税込みです。
千代田区富士見2/振替東京3-1685

——歴史学研究会◎編——

南北アメリカの500年 全5巻

「発見の500年」か「侵略の500年」か?
第①巻 富田虎男・清水透=編

「他者」との遭遇
コロンブスの「新大陸」到達から植民地時代を中心に(三つの人種)の出会いと葛藤などを描く。¥3090・税込

▶以下続刊

② 近代化の分かれ道
③ 19世紀民衆の世界
④ 危機と改革
⑤ 統合と自立

青木書店
東京新宿早稲田鶴巻538 TEL3202-3999

有斐閣 出版案内 (定価は税込み)
東京・神田・神保町2 Tel:03-3265-8811

●社会学界の総力を結集して完成した本格的な辞典

新社会学辞典

編集代表 森岡清美 塩原勉 本間康平
●総収録項目 約六〇〇〇件 ●執筆者総数 五二三名

●目次上巻/下巻/三三三頁 (本文/目録/2頁/掲載頁)

●現代社会学の共通言語の確立と意味の権威化を目指す
●研究領域の大分化、新しい理論形成や隣接分野との交流、国際化の進展等、トータルで捉えなくてはならない現代社会学の全体像を抽出し、今後の研究のための共通の基礎を提供する。

●心理学、社会学、文化人類学、法社会学、精神分析学、経済史、社会学、社会統計学等については十分に配慮し、項目の選択と叙述を行なった。記号論、現象学、構造主義等の用語も採録した。

定価 二〇六〇〇円

ごみで斬る
 廃棄学と循環型社会からのアプローチ
 依田彦三郎他著 爆発するごみ、生命を脅かす究極のごみ。切迫する問題への新たな構想！ 四六判/2000円

ライブ夢空間
 四谷コタン物語
 三上左京著 ライブハウスの亭主が寺山修司など通り過ぎていった多士済済のアーティストを語る。四六判/1800円

よりよい医療を「買う」ために
 田中伸尚著 患者は医療の消費者だ！耳の痛い報告。 四六判/1800円

ケンブリッジの哲学する猫
 P・J・デーヴィス/M・ドリアン挿絵
 深町眞理子訳 A5変2色刷/2800円

社会思想社
 東京都文京区本郷3-25 ☎03-3813-8105

写真図説 日本の侵略
 アジア民衆法廷準備会編
 編集委員 高崎宗司・高嶋伸欣・田中伸尚・谷川義雄・吉田裕 世界各国の個人・図書館・博物館などの協力を得て収集した900点余の写真と資料図版で、侵略の全貌を初めてトータルにとらえる。類例のない規模で描く「大東亜共栄圏」の真実

B5判カバー
 288ページ
 48000円

東京文京本郷2-11 **大月書店** 電話03-3813-4651

忽ち重版！

世紀末「時代」を讀む
 滝沢俊介

気鋭の政治学者と批評家が、石原慎太郎、大前研一、柄谷行人、岩井克人らの思想上の世界的激変と日本をめぐる政治思想的諸問題を斬る話題作。22000円

▶ 定価は消費税込み
 東京都千代田区外神田2-18-6 **春秋社** ☎(03)3255-9611 振替東京8-24861

古東哲明
〈在る〉ことの不思議
 根源的な否定性が肯定性に転成する祝祭のロジック。3刷/3090円 380

廣松 渉
哲学の越境
 行為論の領野へ ロボット、文化人類学、精神病理等。3502円 380

中村桃子
婚姻改姓・夫婦同姓のおとし穴
 「たかが姓名」にメス！ 2060円 310

金井淑子
フェミニズム問題の転換
 女の生きる場へ向けフェミニズムの明日を語り続ける。2369円 310

* 定価は税込/振替東京5-175253
 東京文京後楽2-23 **勁草書房** 電話(03)3814-6861

非売品

回覧者印	回覧者印	回覧者印	回覧者印